

統合報告とSDGs

日本国内における統合報告書の発行企業数は300社を超え、依然として拡大傾向にあります。こうした中、企業報告における課題は、IIRCの統合報告フレームワークや先般公表された価値協創ガイダンスを有効に活用し、持続的な企業価値向上に向けた経営の取り組みを、投資家にもより分かり易く表現していくことにあります。

日本においてもESG投資元年をむかえ、経済団体にはSDGsを踏まえた企業行動憲章改定の動きがあります。今後は、SDGsを企業経営や企業報告にどのように統合し、自社の持続的成長へのシナリオを描いていくかも喫緊の課題です。当セミナーでは、こうしたグローバルに進展するESG投資やSDGsの最新動向を踏まえ、新たな進化ステージにはいった日本企業の統合報告書の在り方について、さまざまな角度から考察を加えます。

日時 2017年11月17日(金) 13:40~16:30 (受付開始13:25)

会場 ベルサール東京日本橋 5階 Room3

東京都中央区日本橋2-7-1 東京日本橋タワー Tel: 03-3510-9236

アクセス: https://www.bellesalle.co.jp/shisetsu/tokyo/bs_nihonbashi/access

○「日本橋駅」B6番出口直結(銀座線・東西線・浅草線)

○「三越前駅」B6出口徒歩3分(銀座線・半蔵門線)

○「東京駅」八重洲北口徒歩6分



対象 企業のIR、広報、経営企画、法務、CSR部門などで統合報告書作成やESG開示に携わる方

○ 申し訳ございませんが同業他社、コンサルティング会社の方々はお断りしています。

定員 100名(定員になり次第締め切らせていただきます。)

参加費 無料

登壇者 森澤 みちよ氏 国連責任投資原則(PRI)ジャパンディレクター

安藤 聡氏 オムロン株式会社 取締役

森田 裕之氏 キリンホールディングス株式会社 グループCSV戦略担当主幹 兼 キリン株式会社CSV戦略部主幹

菊池 勝也氏 大和証券投資信託委託株式会社 運用企画管理部 担当部長(スチュワードシップ活動担当)

小野塚 恵美氏 ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社

運用本部 スチュワードシップ責任推進室長 ヴァイス・プレジデント

松原 稔氏 株式会社りそな銀行 アセットマネジメント部 責任投資グループグループリーダー

主催 株式会社エッジ・インターナショナル

協力 企業価値レポート・ラボ

お申込み

参加ご希望の方は以下、PeatixのURLよりお申込みください。

<http://peatix.com/event/302312>

お問い合わせ先: Tel: 03-3403-7750 (セミナー担当) / E-MAIL: seminar-info@edge-intl.co.jp

ごあいさつ (5分)	13: 40～13: 45	株式会社エッジ・インターナショナル 代表取締役 梶原 伸洋
講演I (30分)	13: 45～14: 15	「PRIの新ビジョン、日本企業への期待」 PRI「次の10年ビジョン」とESG/SDGsに関する日本企業への期待 国連責任投資原則(PRI)ジャパンディレクター 森澤 みちよ氏
講演II (20分)	14: 15～14: 35	「オムロンの取り組みと挑戦」 統合レポート2017における進化のポイントと、SDGsへの取り組み オムロン株式会社 取締役 安藤 聡氏
講演III (20分)	14: 35～14: 55	「キリングループの取り組みと挑戦」 CSVコミットメント策定の背景と、今後の経営や企業報告への展開 キリンホールディングス株式会社 グループCSV戦略担当主幹 兼 キリン株式会社CSV戦略部主幹 森田 裕之氏
休憩15分		
パネル ディスカッション (80分)	15: 10～16: 30	<p>「統合報告とSDGs」 ROESG時代到来! 統合報告とSDGs 長期投資家は、企業経営や企業報告に何を期待しているのか?</p> <p>ESG投資が拡大し、SDGsへの取り組みも期待される中、</p> <p>① 長期投資家は、企業経営や企業報告に何を期待しているのか?</p> <p>② 一方、企業は、金融市場(投資家)との建設的な対話において、何を期待しているのか?</p> <p>パネリスト</p> <p>大和証券投資信託委託株式会社 運用企画管理部 担当部長(スチュワードシップ活動担当) 菊池 勝也氏</p> <p>ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社 運用本部 スチュワードシップ責任推進室長 ヴァイス・プレジデント 小野塚 恵美氏</p> <p>オムロン株式会社 安藤 聡氏</p> <p>キリンホールディングス株式会社 森田 裕之氏</p> <p>モデレーター</p> <p>株式会社りそな銀行 アセットマネジメント部 責任投資グループグループリーダー 松原 稔氏</p>

登壇者プロフィール

国連責任投資原則(PRI)ジャパンディレクター **森澤 みちよ氏**

国連責任投資原則(PRI)事務局が2010年にジャパンネットワークを創設するにあたり、ジャパンディレクターを同年より担当。CDP(カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト)事務局ジャパンディレクター兼務。シティバンク等で金融機関間決済リスク削減業務に従事した後、2003年より環境学の研究を開始。東京大学博士(環境学)

オムロン株式会社 取締役 **安藤 聡氏**

1977年東京銀行(現三菱東京UFJ銀行)入行。資産運用業務や米国・インドネシアの海外勤務などに従事した後、2007年同行退職。同年オムロンに入社し、常勤社外監査役、2011年執行役員経営IR室長、2015年執行役員常務グローバルIR・コーポレートコミュニケーション本部長を経て、2017年6月現職。経済産業省、企業報告研究会企画委員会委員、伊藤レポートプロジェクト委員、株主総会のあり方検討分科会委員、持続的な価値創造に向けた投資のあり方検討会委員、IIRC(国際統合報告評議会)日本事務局/統合報告実務者意見交換会メンバーなどを歴任。一橋大学CFO教育研究センター客員研究員、年金積立金管理運用独立行政法人/企業・アセットオーナーフォーラム企業側代表幹事、日本経済団体連合会各種委員会委員。

キリンホールディングス株式会社
グループCSV戦略担当主幹 兼キリン株式会社CSV戦略部主幹 **森田 裕之氏**

1986年キリンビール入社。同社及びグループ会社にて国内ビール営業、広報、調達、経営企画を経て、2015年4月キリンホールディングス グループ経営戦略担当CSV推進室長、組織変更を経て現職。キリングループのCSVを戦略的に推進し、持続的成長を担保することがミッション。2017年2月にキリングループのCSVストーリー/コミットメントを発表。経団連<教育・CSR本部/企業市民協議会/企業行動憲章改定タスクフォース>メンバー、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン CSV分科会共同幹事、コンシューマーグッズ・フォーラム理事会メンバー。

大和証券投資信託委託株式会社 運用企画管理部
担当部長(スチュワードシップ活動担当) **菊池 勝也氏**

1989年大和証券投資信託委託(株)入社。2013年まで20年近く株式運用部門に所属しファンドマネージャーを務める。主として成長株ファンドやSRIファンドを担当。2013年に調査部へ異動し医薬品セクターなどをカバーする。調査部長を経て2017年4月より現職。内閣府「社会的責任に関する円卓会議」運営委員、環境省「企業の環境情報開示のあり方に関する検討委員会」委員、環境省「環境情報の利用促進に関する検討委員会」委員、経済産業省「持続的成長への競争力とインセンティブ～企業と投資家の望ましい関係構築～(伊藤レポート)」プロジェクトメンバー委員等。著書:「環境と金融・投資の潮流(環境経営イノベーション)」(2011年中央経済社:共著)

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社 運用本部
スチュワードシップ責任推進室長 ヴァイス・プレジデント **小野塚 恵美氏**

2000年同社入社。営業部、運用部、業務部における多岐にわたる資産運用関連業務を経験後、アジアパシフィックの運用部チーフ・オペレーティング・オフィサーに就任。現在はスチュワードシップ責任推進室長として、日本国内における同社のESGリサーチ、企業との対話を担当。同社入社以前は、JPモルガン銀行に2年間在籍。

株式会社りそな銀行 アセットマネジメント部
責任投資グループグループリーダー **松原 稔氏**

1991年同社入行、年金信託運用部配属。以降、投資開発室及び公的資金運用部、年金信託運用部、信託財産運用部、運用統括部で運用管理、企画を担当。2009年4月より信託財産運用部企画・モニタリンググループ グループリーダーを経て、現職。日本証券アナリスト協会セミナー企画委員会委員、企業価値分析におけるESG要因研究会委員(-2015.6)、社会的責任投資フォーラム運営委員、PRI(国連責任投資原則)日本ネットワークコーポレートワーキンググループ議長。環境省「持続可能性を巡る課題を考慮した投資に関する検討会」メンバー。